

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1475200299	事業の開始年月日	平成12年4月1日
		指定年月日	平成12年3月28日
法人名	医療法人社団三喜会		
事業所名	グループホーム中原		
所在地	(211-0041) 神奈川県川崎市中原区下小田中3-2-25		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和4年12月23日	評価結果 市町村受理日	令和5年3月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で、ご入居者様のご自身で選択したり、自己決定できる場面を多く持てるように配慮し、日々の暮らしの中にある楽しみや願いが少しでも実現できるように努めている。
また、ご入居者様の状態変化に素早く対応ができるように看護師を配置し、往診医との協力体制を作り、看取りケアを行える体制を整えている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年1月25日	評価機関 評価決定日	令和5年3月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR南部線「武蔵中原」駅から徒歩10分の住宅地にあります。木造作りの2階建て、2階部分に1ユニット（9名）の川崎市で最初のグループホームです。社宅を改修した建物1階には同一法人の通所事業所も在ります。

<優れている点>

川崎市の推進する福祉事業に積極協力しています。「かわさき基準（KIS）認証制度」では、優れた福祉製品認定のため、モニター事業で協力して、製品機能のデータを集約し川崎市に報告しています。「在宅時生活をホームに来て同じ」を念頭に、終の棲家として家族にも安心してもらうため、看取りを前提として、希望があればすべてに対応しています。コロナ禍でも家族は本人に寄り添い、職員はこれを支援しています。食事は食材から気配りをしています。調理職員手作りによる旬の食材に拘った食事を提供しています。入居者は新鮮な旬の食材に喜んだり、調理法や食材の切り方に関心を示し「あら、うち（郷土）ではこう切るわ」などの会話も生み出しています。また、朝食は起床時間が早い人から、1時間程度の余裕範囲を持ちつつ、利用者が食べたい時間に提供しています。非常事態に対応するための検査用保存食として毎食の検食を冷凍保存しています。

<工夫点>

ケア業務外の仕事を会議の中で全員が洗い出し、それらの役割分担を決め、様式を整え明確化しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム中原
ユニット名	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3. たまにある <input type="checkbox"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3. たまに <input checked="" type="checkbox"/> 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input checked="" type="checkbox"/> 3. あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	定期的なカンファレンスの中で共有できるように努めている。	定期カンファレンスを月1回行っています。ケアカンファレンスと業務カンファレンスに分けて、隔月で開催しています。各職員判断で行うケアは、ホーム運営理念を基に指導しています。例えば、利用者の水分摂取時に水分補給拒否をした人の対応を理念に立ち帰り支援するようにしています。	法人の理念を受け継ぐ、設立時の中原運営理念と中原運営目標とがあります。加えて重要事項説明書に別項目でホームの目的とホームの運営方針があり、これを検討し整理することも今後に望まれます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	感染対策により、地域イベントが行われず直接参加する機会がなくなっている。近隣からいらなくなった物品の寄贈があったり、つながりは持っている。畑をしている方から芋ほりの誘いを受けた。	コロナ禍でも地域との交流を繋げています。近隣の理容室からタオルの再利用の提案を受け、雑巾などに作り変えて利用しています。自治会にも加入し、町内会長、民生委員の仲介で農家の芋掘りにも参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域からの相談に対して丁寧な説明を実施している。 感染対策のため、会合形式では行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	感染対策のために集まったの会議を開催できていない。	運営推進会議は書面会議を4回開催しています。事業所は「活動状況報告書」を作成し、全構成委員に郵送で届けています。事業所を含む法人全体の活動を知ってもらうため、Facebook（SNSアプリ）も活用し、地域や家族などにも知らせています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	かわさき基準（KIS）認証製品のモニター評価事業に参加して、専門的なアドバイスなどを行うなど協力を努めています。 中原区のグループホーム協議会にも参加してもらい、意見交換も実施している。	事業所は川崎市のKIS（自立支援を中心とした8つの理念により構成されたかわさき基準 認証福祉製品）のモニター事業を受け、専門的な立場と知識から基準認証の結果を報告しています。スピーカーやカメラ付ベッド用センサーの実績があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	法人作成の高齢者虐待防止マニュアルをもとに、身体拘束をしないケアの実践に努めています。 年1回の自己チェックシートを用いた各自の言動のチェックや、動画を活用した勉強会を実施している。	事業所は身体拘束ゼロの手引きなどで事業所研修を年1回、法人主催の2ヶ月に1回の研修にも参加し、会議で報告しています。30項目の自己チェックシートは各自が記入後、管理者から法人へ提出し、集約後の結果は会議で話し合いをしています。勤務時間で動画の視聴を各自が実施しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的なチェックシートの活用と、動画視聴を行い、勉強会を実施している。	「高齢者虐待対応マニュアル（川崎市版で防止法の概要・対応・事例）などを使用した研修では「言葉によるものが多い」「自分ごとにするとう発言しづらい」や「気付いていない」などの発言もあり啓蒙活動にも取り組んでいます。動画の事例を視聴してカンファレンスで話し合っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関して専門的な勉強会は実施していない。 入居者の中に制度を利用している方がいるという程度の認識である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用開始時に直接の説明を行い契約書にサインをいただいている。 契約等の変更時には都度文書などを用いて確実な説明を実施し、ご理解をいただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご入居者の家族には、毎月状況報告を送付して利用者の日々の様子を伝えていきます。感染対策のため、直接の面会などは行えていませんが、オンラインでの面会もできるように声掛けや、文書での案内も行っている。	訪問歯科受診により通院になり、家族同行を担当者が記入した「状況報告書」で伝えていきます。コロナ禍により、オンライン面会を実施していますが、電話での会話の方が利用しやすい傾向にあります。誕生日が近くなると家族からの電話が増え、取り継ぎ支援を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の定期的なカンファレンスの中で気づいたことや意見、改善案などを話し合い、改善が図れるように努めている。	「リビングのエアコン購入」や「職員休憩室にテレビが欲しい」などの意見を法人へ上申して承認を受けています。ケア業務外の発注業務などの仕事は役割分担を明確化しています。各自の持つ業務内容を会議で話し合い、「様式」に記載することで担当外でも分かりやすくなるよう統一する工夫をしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	全職員に人事評価を実施し、能力向上を図れるように働きかけを行っている。体調面でも配慮し、勤務形態や働き方の相談も受け、柔軟に対応をしている。	法人様式で一次評価（個人）と、二次評価（管理者）をそれぞれ実施しています。職員休憩室にはエアコン、テレビ、個人ロッカー、食事もできるイスと机を設置しています。有休の取得を推進し、年長の有休保持者（20日以上）には積極的な有給取得の声掛けをしています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人の介護部や、居宅部主催の研修への参加や、外部研修への参加ができるように声掛けを実施している。定期的なカンファレンスの場を利用して、ケアの質を高めるよう努めている。	法人介護部は介護職に特化した研修を、住宅部では法人全職種を対象にした研修を主催しています。人事評価では能力評価の結果による、本人希望や管理者推薦による研修参加をしています。個人的なOJTによる実務教育もあります。カンファレンスでは知識と実務の自己研鑽をしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	中原区のグループホーム協議会が再開された。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始時に、本人の状況や思いなどを聞き取り、情報を職員で共有した上で、入居者がその人らしく生活できるよう関係構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前後より家族の要望や思いを伺い、ケアプランに反映をしている。毎月入居者様の様子をご報告したり、行事の際にとった写真をお送りしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	開始時のご本人やご家族の抱えている悩みや要望などを、前ケアマネジャーやサービス提供者等から情報を得るように努めて、環境の変化に早く対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者の身体能力を把握し、これまでに行ってたことを極力継続席るように支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、入居者の生活の様子や、体調などを報告している。行事など行った際には写真を取り、送付している。電話でのやり取りも行い、安心できる関係を構築している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	感染対策により、外出の機会が少なくなっているが、散歩などを利用し古くからあるお寺などにお参りをしたりしている。また、地域の祭事がある際は積極的に参加して、地域との交流を図っている。	初期のフェイスシートや日常での会話情報を基に支援をしています。日々の食事は「旬」を大事に毎日調理をしています。大根、カブなどの切り方から「あら、私の家ではこう切るわ」などの会話から、故郷や生まれなど生活歴を知る機会となり、新しいケアに繋げています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係性が悪くならない様座席のレイアウトに配慮したり、体操や歌、散歩などで個別に交流が図れるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	折々、必要に応じてご家族の様子など手紙や電話で連絡を取っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	要望のあった利用者に対して、ご家族と相談のうえで訪問マッサージや訪問理美容を受け入れしている。	入居前に本人・家族から生活歴や意向を聞き、入居後も継続できる事を目標にしています。毎晩晩酌の希望がある人に、現在もノンアルコールビールを提供しています。コーヒーが好きな利用者が多く、コーヒーメーカーをリースし、入居前からの嗜好の継続支援ができるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス開始時にこれまでの生活状況などを聞き取り、家事や掃除などできることは継続してできるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人ひとりのこれまでの生活スタイルや暮らし方を把握し、無理のないような生活が送れるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の意向を伺ったうえで本人の望む生活に向けて計画作成担当者はカンファレンスや日々の申し送り、居室担当者からの情報をもとに介護計画とモニタリングを行っている。	ケアプランは、本人・家族の意向を聞き作成し、職員間で共有しています。入居後は、本人の会話や仕草から確認しています。モニタリングは、職員の申し送りやカンファレンス、医師や看護師の意見も参考にしています。状態変化時には、ケアプランの見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の個別記録や職員間の連絡ノートに新たに得た情報を記載し、職員が共有出来るよう努めている。 また、医療の情報や処置の指導についても個人記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族が対応出来ない時の受診支援や外出には職員の勤務を調整して柔軟に対応出来るよう努めている。 衣類や生活物品で必要になったものは、家族にも相談のうえで職員と共に購入している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の情報を得よう努めているが、資源の活用とまではなっていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	個々に月二回の往診を受けている。 また、必要な時には臨時往診もしていたでいる。他科受診は家族が対応出来ない時や緊急時は職員が対応している。	今までの医療機関を継続する事も可能です。現在は全員が協力医院をかかりつけ医としています。月に2回、内科医が往診し、医院の看護師と薬局の薬剤師が同行します。歯科医は、必要時に往診しています。施設の看護師は、週に1回利用者の健康管理をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は日々の業務で気づいた事や変化を看護師に報告し、利用者に適切な看護医療が受けられるよう支援している。看護師は介護職員に介護指導や観察ポイントなどアドバイスしている。看護師は医師との連絡報告を常に行い個々の利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には安心して治療に専念していただけるよう病院関係者、医療関係者、家族との連携を密にしている。入院中の病院訪問も密に行い家族への報告も行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族に終末期のあり方を確認し希望に添えるよう努めているが、施設内で出来ないこともあることを了解していただいている。急な状態の変化に対しても事前に手順を作成し、落ち着いたケアが出来るように努めている。	契約時に「重度化指針」「重度化・終末期対応」に同意しています。重度化した時は、医師が状態説明をして、看取りの同意を確認します。看取りは昨年経験しており、コロナ禍でも、家族が本人の部屋で寄り添えるよう支援しています。研修や振り返りも行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急マニュアルにそって対応出来るよう勉強会を行っている。夜間は職員が一人になるので近隣の職員の協力を得ることもある。緊急連絡網の更新を都度行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練は同一建物内であるデイサービスと合同で年2回行っている。備蓄は水、食料、おむつ、利用者の緊急時ファイル等を持ち出し用としている。	年2回の防災訓練は同建物1階のデイサービスと合同で行い、夜間想定を含めて、消防署の立ち合いも行っています。年に数回、法人からの一斉安否確認メールの訓練も行っています。コロナ禍ですが、近隣住民との協力体制作りと、事業所独自のBCP（事業継続計画）ガイドライン作成も進める予定です。	備蓄・備品、オムツ類はキャリーコンテナに保管して、そのまま持ち出せます。今後は緊急時の利用者の写真、病歴、薬の処方箋、物品の内容の見直しを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報、プライバシー保護について勉強会を行っている。 また、日々の業務の中で気になる点について注意したりカンファレンス内において話し合っている。	トイレ誘導時や声掛けをする場合は、本人に寄り添い、周囲の人にも配慮して行っています。女性利用者から、入浴時や排泄時の男性職員の支援は避けて欲しいとの希望があり、同性介助を基本とする事に変更しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が話したい時には、極力傾聴するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	主体は利用者であることを常に意識し本人の思い、要望を最優先しているが、職員のペースになっている時には注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整髪、爪切り等は状況をみながら行っている。服装についても好みがある利用者には本人の意向を聞いている。 髪染めの希望がある際には、本人の了解のもとでカラーリングも行う。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の利用者の好みや食事形態について考慮している。 季節に合わせた行事食も提供している。 食べたいものについての要望も聞き、献立に取り入れるようにしている。	朝食は1時間程度の余裕範囲を持ちつつ、利用者が食べたい時間に提供しています。食物繊維が多い食事を食べる事や、毎朝牛乳を飲むなど、下剤に頼らない排便を目指しています。献立は職員が作り、旬の食材を含む食材も毎日職員が購入しています。職員1名が検食を行い、内容を確認しています。行事食や誕生日の特別食もあります。	餃子を包み、焼きそば、お好み焼きなど、目の前で焼いて食べる事で、五感に訴える食事作りを行っています。さらに利用者が買い物で食事作りに参加できる機会が増える事を今後に期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分摂取量を毎日チェックし、栄養が偏らないよう把握をしている。補食として、補助食品や飲料も複数提供し、必要な栄養がきちんと摂れるよう働きかけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、個々の能力に応じて口腔ケアが出来るよう支援している。一人で出来ない利用者には、食事、おやつ後に口腔ケアを行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の利用者の行動を観察し、排泄のタイミングがつかめるよう支援しトイレに誘導している。尿意がある場合は、トイレへの誘導も行い、トイレでの排泄を促している。	水分・排泄表により、トイレでの排泄を支援をしています。「そわそわ」するなどの行動が見られた時に誘導する事でスムーズな排泄に繋がっています。夜間帯は、起きた時に睡眠スキャンセンサー（体動を検出し睡眠状態を測定）が反応する事で、転倒予防も含めた排泄支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食物繊維不足を補う為、白米には胚芽押麦を足し提供している。また、おやつ時にはヨーグルトとオリゴ糖を提供する等、食事の工夫を行っている。下剤の使用を極力行わないように工夫をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	個々の利用者の希望に応じた入浴が出来るよう努めている。利用者の状況により2人介助で入っていただいている。少しでも季節感を味わっていただけるように、しょうぶ湯やゆず湯なども取り入れている。	1週間毎日午前中を入浴時間としています。週2回以上入る事を基本とし、曜日を決めず希望する日に入浴しています。入浴していない日が続く場合には声掛けをしています。湯の入れ替えを毎回行い清潔を保っています。入浴が嫌な人には、お風呂とは言わず、他の会話をしながら何気なく誘導しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の状態に応じ就寝時間に合わせた睡眠が出来るよう支援している。夜遅い方にはお話し相手になるなどの対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の利用者の服薬内容を把握し安全な服薬が出来るよう努めている。日々の健康チェックや状態を医師に報告し薬の調整をさせていただいている。内服薬での疑問点には、薬剤師への相談も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の生活歴や嗜好の把握に努めている。出来ることが継続出来るよう洗濯物たたみやお掃除など職員とともに頑張っている。また、四季折々の行事食を取り入れている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の重度化により外出の機会が少なくなっているが、日向ぼっこや車いすでの短時間の散歩など極力取り入れるよう努めている。外出希望のある利用者には職員がボランティアで支援している。受診の帰りにドライブすることもある。	天気の良い日の午後は毎日、徒歩や、車いすで近所の公園や周辺の散歩に出かけています。コロナ禍の現在は個人的な外出は自粛していますが、正月には初詣に出かけています。外来受診の送迎時には、少し遠回りをしてドライブをするなど工夫をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が出来る状態ではなく、すべての方が施設での管理となっている。本人が購入を希望するものについては、職員が代理または、店舗へ利用者と同行して購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	認知力の低下や家族との交流の少ない利用者のため難しい状況にあるが、必要時は電話やビデオ通話で話していただくこともある。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部分は清潔に使い、勝手の良い空間であるよう努めている。 行事の写真等も掲示出来るよう掲示板を多めに取り付けている。	リビングには空気清浄機の設置や、温度、湿度、換気に配慮し、常に職員が確認しています。季節ごとの飾りを利用者と職員と一緒に制作しています。行事や誕生日会、正月に箸を新調し皆で撮影した写真を飾り、居心地の良い環境となるよう工夫もしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	構造上の問題から十分とは言えないが、日当たりの良い廊下にソファや椅子を置くなどして、個の場所も確保できるよう努めている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室は本人の馴染みの物や好みのレイアウトにしてあり机、テレビ、仏壇等を置いている。危険防止の観点からタンスなど持ち帰っていただいた部屋もある。	タンスと収納、下駄箱、エアコン、ベッド、照明、カーテンを備え付けています。希望する場合には、イスやテーブルの貸し出しもあります。入居前の部屋のようにテレビ、仏壇、小物を置き安心する空間になるようにしています。ドアには、表札を貼り、自分の部屋が分かりやすくする工夫もしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各個人の出来る事や出来ない事を把握し安全に生活していただけるよう努めている。歩行が不安定な方には付き添って歩いたり、出来る事への手助けや声掛けし職員と一緒にいたりしている。		

2022年度

事業所名 グループホーム中原
 作成日： 令和 5年 3月 22日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	災害時の持ち出し品に入居者の写真や、病歴、薬の処方など物品の見直しをした方がよい。	災害持ち出し品の見直し。	入居者の写真、既往歴や緊急連絡先の情報、お薬手帳を持ち出し品に加えて整理する。	6ヶ月
2	1	「理念と運営目標」、「目的と運営方針」複数あるので、検討、整理をした方がよい。	理念と目標、運営方針を検討し、内容を整理する。	法人理念を基に目標、目的を整理する。その上で方針を検討する。立案後、本部に確認を行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月